

山形県スポーツ少年団

# 大空に翔る

地区協議会だより

平成28年2月発行  
No.31

発行  
公益財団法人 山形県体育協会  
山形県スポーツ少年団  
山形市松山2-11-30  
☎(023)625-5750  
<http://www.yamagataken-taikyo.or.jp/>  
印刷 (株)大風印刷



置賜地区スポーツ少年団リーダー研修会(置賜地区協議会)



第42回日独スポーツ少年団同時交流事業  
(最上地区協議会)



第51回山形県スポーツ少年団大会  
兼平成27年度ジュニア・リーダースクール(村山地区協議会)



庄内地区協議会研修会  
(庄内地区協議会)

今年度の諸事業も皆様方のご尽力により、無事終えることができました。厚く御礼申し上げます。

昨年十二月三十一日に厚生労働省が公表した人口動態統計の年間推計で、平成二十七年に生まれた新生児が前年より約四千人増え、五年ぶり前年を上回ったと報道されております。これからも出生数が多くなることを期待いたします。

今年度の団員数は団員確保の努力もむなしく、前年比で三一四名減少となりました。団員が減るといことは運営財源の減にも繋がり、指導者の研修や団員・リーダーの交流、研修などの充実にも支障をきたすこととなります。一昨年から事業の見直しをしながら財源確保について議論してきましたが、やむなく平成二十八年度の県スポーツ少年団の登録料を百円値上げすることにいたしました。ご理解とご協力をお願いいたします。

今年の八月には、リオデジャネイロ・オリンピックが、四年後には東京でオリンピックが開催されます。これを機会により多くの子どもたちがスポーツ少年団でスポーツに親しみ、いい子どもたちが育つよう、より一団となって活動の魅力づくり、環境づくりに取り組んでいきましょう。



山形県スポーツ少年団  
本部長 村田 久忠

活動の魅力づくりを

# 平成二十七年山形県スポーツ少年団

## 指導者・育成母集団研修会

村山地区協議会指導育成委員会会長 松木俊和

十一月十四日(土)山形国際ホテルにおいて県内各地から一四〇名近い参加者が集い、研修会が開催されました。

研修会に先立ち、日本スポーツ少年団顕彰伝達式が行われ、舟形町スポーツ少年団には団体表彰が、寒河江市の早川勤也氏、朝日町の石塚悦男氏、長井市の安部行雄氏、酒田市の土門満氏には個人表彰が、鶴岡市の本間清治氏には感謝状が村田県本部長より贈呈されました。

研修会の講演では、宮城教育大学教授の池田晃一先生を講師に迎え「これからの指導者はどうあるべきか」と子どもたちと楽しく活動するためには」と題してご講演を頂きました。

前半は「指導者の持つべき資質」についての内容でした。指導者の資質向上のための有識者会議報告書(ある体育大学での調査)によると、体罰を受けた経験がある学生へのアンケートで「指導者になったときに殴るかもしれない」と答えた割合が二十四%にもなっている結果から、暴力は連鎖につながることが懸念されると述べられました。

暴力を容認してしまう背景として、①「自分は未熟だから大



人の言うことを聞かなければならない」という子どもの考え、②「先生の言うことを聞きなさい」という親の考え、③「愛の鞭イコール熱心な指導」という指導者の考えの三つの考えがあり、これらが暴力・体罰を容認し、指導者は知らず知らずのうちに選手・子どもに対して権力を持ってしまおうとお話でした。

暴力根絶には、指導者がスポーツの意義を再認識し「主役は選手・子どもたち(プレーヤーズファースト)」と考へ、ティーチ(教える)でなくコーチ(導くこと)することが大切であり、具体的には、選手の能力を最大限に引き出してあげること、自分で気づいて解決する能力を身につけさせることがコーチの役割であるということでした。また、指導者は「聞く・話す・読む・書く」の言語四機能のトレーニングを通して、子どもたちのロジカルコミュニケーションスキル(論理的・分析的・批判的な思考方法)を向上させなければならぬと力説されました。

後半は「子どもたちの自立のためには」についての内容でした。選手がやる気や意欲を持ち続けるためには動機づけが必要で、行動の他に明確な目標(報酬)があり、目標によつ



て意欲が引き出される外発的動機づけと、行動それ自体が目標となり、行動によって意欲が引き出される内発的動機づけがあると述べられました。

選手の動機づけを高めさせるためには、①「努力すれば達成できそうな目標を設定させる」、②「初心者には単純に、熟練者には詳細に結果をわかりやすく伝える」、③「選手に自分ではできないという有能感や成功体験を持たせる」ことが大事であるとお話でした。

また、選手の能力を最大限に発揮させるためには、脳の仕組みを知ることが大事であり、脳の働きは心(感情)と繋がっていて、入ってきた情報に「嫌いだ」というマイナスレッテルを貼ると、脳はその後に控える「理解」「思考」「記憶」という過程で、そのレッテルに引つ張られ、考えたり覚えたりする機能が働かなくなると述べられました。

最後に、指導者はチームの目的・目標達成に向けて、計画↓実行↓評価↓見直し↓計画を行いつつ、選手たちを目的(将来の夢・目標(近い夢))を設定させ、全員が同じ方向を向いてあきらめないで進んでいかせることが大事であるとお話され、講演は終了しました。

その後、「スポーツ少年団、さらなる発展のために」というテーマのもと実践事例発表を行い、山辺野球スポーツ少年団の渡辺真好氏、二井宿スポーツ少年団の中川広幸氏から、子どもたちへの指導や団運営に対して丁寧な発表を頂きました。



## 市町村の動き

昭和五十四年 金山町スポーツ少年団事務局



昭和五十四年に金山町スポーツ少年団本部が設立され、今年度で三十七年目となる。設立当初から比較すれば単位団数や団員数は減ったものの、平成二十七年現在、単位団五団、団員百十九名、指導者九十二名の登録で活動している。

各単位団では、日頃から多くの指導者が熱意を持ち、指導にあたっている。また、競技だけでなく社会奉仕活動等を行っている単位団もあり、青少年の心身の健全育成を図るべく活動を展開している。

町本部としては、指導者の育成と資質の向上を重点に取り組んでおり、認定員養成講習会へ指導者を派遣し、全指導者の資格取得を目指している。また、毎年行っている指導者研修会は救命救急や応急処置を中心に、事故が起きた際に迅速に対応できるよう実施している。

子どもたちを取り巻く環境は少しずつ変化しており、少子化による団員数の減少、放課後の過ごし方にも関連し、スポ少活動の在り方についても今後検討していく必要がある。金山町スポーツ少年団は、主体性を堅持しながら、これらの変化に柔軟に対応し、スポーツを通じた人間教育、団員が充実した活動が行えるよう、学校・地域と一体になって取り組んでいきたい。

# 単位団紹介

自然観スキースポーツ少年団(朝日町)

代表指導者 堀 幸雄

当少年団は一九七八年(昭和五十二年)に発足し、今年で三十七年目になります。Asahi自然観スノーパークで活動しており、今年の団員は小学一年生から六年生までの四十九名です。冬期間の練習は毎週日曜日の午前九時から正午までの三時間、レベルごとに五班編成して認定指導員七名を含む八名の体制で活動しています。基礎スキー中心ですが競技スキーも取り入れてスキー技術の向上はもちろんですが、楽しみながらスキーに親しんでもらえるよう配慮しています。小学生の低学年には初めてスキーに挑戦する子どももいますが、その上達は早く二月には自在に滑走できるようになります。シーズンの締めくくりとして三月にジュニアバジテストを行います。これには団員全員が挑戦します。一級から五級までで、自分の希望の級に合格できたバッジを手にした子どもたちの笑顔を目の前にすると、シーズン中の指導の苦労も忘れず。スキー人口の減少が心配されていますが雪に慣れ親しみ、山形の冬を楽しく過ごす子どもたちが一人でも多くなるよう、これからも指導していくことが我々の使命だと考えています。



沼田北辰サッカースポーツ少年団(新庄市)

代表指導者 早坂 貴広

沼田北辰サッカースポーツ少年団は市内北部に位置する沼田小と北辰小の児童からなる総勢四十名の団員とスタッフで日々活動しています。練習時には、卒業した中高生や社会人の方々も団員に混じり一緒に活動する、そんな地域に愛される団に成長しました。また、練習時の指導内容もサッカーの技術だけではなく、挨拶、礼儀、躰、仲間への思いやり、そして何となく支えてくれる家族への感謝の気持ちを忘れる事なくプレーする事を強く指導しています。



試合や練習試合なども積極的に取り組み、様々な地区の方々との交流を深め、人としての成長へつながる向上心も植え付けています。そういった経験が実を結び、六月に行われたフットサル県予選で優勝することができました。八月の全国大会では、県代表として今まで戦ってきた他のチームとの戦歴を力に変えて全国の強敵と戦ってきました。沼田・北辰スポーツ少年団として二十年を過ぎ、これからもまだまだ発展していくチームです。地域の方々、またご指導してくださったたくさんの方々、これからも沼田・北辰の更なる成長を応援よろしくお願ひします。

小国陸上スポーツ少年団(小国町)

代表指導者 井上 賢和

小国陸上スポーツ少年団は昭和五十二年に創設され、週二回(水曜・土曜)の活動を行っています。スポーツの基礎である「走・跳・投」を中心に、陸上競技だけでなく様々な種目を体験させることで、スポーツへの親近感やチャレンジする好奇心を育み、生涯を通してスポーツを続けていける人材を育成することを目標としています。そのため、春・秋は陸上競技のほかドッチボール、鬼ごっこなど遊びの要素を取り入れたトレーニングを行い、冬はアルペンスキーも活動に取り入れています。

近年は団員数が減少傾向にありましたが、今年度は小学一年生・六年生までの計三十二名の入団がありました。幅広い年代の団員が一緒に活動するなかで、上級生がしっかり下級生をリードしてくれる姿が見受けられ、楽しく活動しています。

また、今年度は他市町のスポーツ少年団との合同練習会も開催し、ライバルとして切磋琢磨することにより、秋の県スポーツ少年少女交流大会でも上位入賞することができました。

今後陸上競技をとおし、大人になっても運動に対する興味を失うことなく楽しくスポーツに向き合うことのできる団員を育成していきたいと考えています。



庄内町女子ソフトボールスポーツ少年団(庄内町)

代表指導者 高田 謙

庄内地方唯一となるソフトボール競技のスポーツ少年団として、「ソフトボールをとおして心と体の健全育成を図る」ことを基本理念に掲げ、平成二十五年四月に結成した当団の活動も、丸三年を迎えようとしています。



平成二十七年度は、町内四つの小学校から計二十一名が加入し、毎週水曜日曜及び隔週月曜日に練習しています。男性の認定員指導者四名に加え、子どもたちのお姉さんの立場として、本町の成年女子チームの選手の皆さんからも毎回の練習の際に協力をしてもらいながら、次の三つのことに気をつけ、指導に当たるようにしています。

- ①一人ひとりの元氣な挨拶と、ソフトボールの楽しさの会得
- ②ルールと基本の動きの習得
- ③ソフトボール以外にも様々な運動やスポーツを取り入れること

庄内町は、もともとソフトボール熱の高い地域であり、大人になってもプレーできる環境が整っています。子どもたちからは、プレーする楽しさと感謝する心を育めるよう、また、将来も引き続きソフトボールを続けたいと思ってもらえるよう、今後も指導に当たっていききたいと思ひます。

# 地域の多様化するニーズに応えるスポーツ少年団

近年、本県スポーツ少年団の団員登録は、少子化の枠を超えて減少する厳しい状況になっており、スポーツ少年団の活動に対しては様々な問題が指摘されています。

このような状況から、今後は「魅力ある団づくり」の取り組みと共に多様化するニーズに応じていくことが重要になってくると考えます。

そこで、今回の特集では、特色ある独自の団活動を行っている本県の単位スポーツ少年団を紹介します。

## 「スポーツ少年団から総合型地域スポーツクラブへ」

稲穂サッカースポーツ少年団

代表指導者 村田 久忠

昭和四十五年四月に、活動の四本柱を①「仲間づくり」②「体力づくり」③「自然とのふれあい」④「交歓交流」とし、いろいろなスポーツをさせたいと結成した「稲穂スポーツ少年団」。

昭和五十五年に二回目の全国少年サッカー大会出場を機に、団名を「稲穂サッカースポーツ少年団」（以下、稲穂少年団）に変えました。



稲穂少年団の育成は、日本スポーツ少年団の育成計画に添って進めてきました。昭和五十三年から始まった第五次育成計画の「すべてのスポーツ少年団に母集団を」「母集団活動を中心に、地域スポーツの開発を」というスローガンから、総合型地域スポーツクラブ「稲穂ファミリースポーツクラブ」（以下、稲穂クラブ）が始まりました。特

に、昭和五十六年度には親も定期的にスポーツをしたいという願いから、毎週金曜日夜に小学校体育館を借りて、誰でも参加できるスポーツ広場（通称・ファミリー）が始まりました。この活動も今年で三十五年目になり、そこからソフトボールやサッカーなどの大人のチームが生まれ、現在も大会に参加しています。

平成十八年一月二十九日、地区を鶴岡二学区エリアに広げ、三世代目となり目としました。「稲穂少年団」も結成四十六年目となりましたが、「稲穂クラブ」の中の一つとして活動しています。「稲穂少年団」の団員も小学生で終わらず、中・高・大学生をリーダーに。リーダーの親も、小学生団員の親も、そして趣旨に賛同する方々もみんなが主役となっています。

「稲穂少年団」の特色的な活動を紹介します。



「いろいろなスポーツを体験！」

城北わくわくスポーツ少年団  
代表指導者 平賀振一郎

『親子いっしょに、いろいろなスポーツを楽しもう！』をスローガンに、平成六年に、鶴岡城北スポーツ少年団の七番目の単位団として「城北わくわくスポーツ少年団」が生まれました。本団は、鶴岡市立朝陽第三小学校の二、三年生の子どもたちを中心に、月三回のペースで活動しています。

本団が発足した頃は、スポーツ少年団の加入率が年々下がってきた時期であり、団員数の減少が問題となっていました。また、「年少の頃から、一つの

## わくわくスポーツ少年団年間活動計画

◎印の種目は、メインの種目です。

月	活動予定
4	◎結団式 ○体力テスト①
5	◎バスケットボール ○鬼ごっこ
6	◎バドミントン ○マット遊び
7	◎サッカー ○紙飛行機飛ばし
8	○夏季レク（釣り・座禅・水泳）
9	◎剣道 ○鉄棒遊び
10	◎野球 ○秋季レク（芋掘り・栗拾い）
11	◎卓球 ○ドッジボール
12	◎バレーボール ○なわとび遊び
1	○再体験活動 ○体力テスト②
2	○冬季レク（スケート） ○体験入団
3	○進級を祝う会 ○体験入団

種目に限定しての活動はさせたくない」という父母の意見が多くなった時期でもありました。

そのような中で、スポーツが好きな子どもとの育成と、スポーツ少年団に対する父母の理解を深めることを目的として、本団が生まれました。

活動の内容は月ごとに変わり、メインの種目として、サッカー、ミニバスケットボール、バドミントン、バレーボール、卓球、剣道、野球と、城北スポーツ少年団に所属している各単位団で行っている種目を取り上げ、指導も各単位団の指導者に協力をお願いしています。また、鬼ごっこ、なわとび、鉄棒、マット運動、ドッジボールなどの遊びも取り入れています。さらに、レクリエーションとして、釣り、座禅ハイキング、薩摩芋掘りや栗拾いなどの体験活動も行っています。

本団の特徴は、子どもが、いろいろな運動の特性に触れることにより、「このスポーツはこんなところが面白いん

だ。」ということとを身をもって体験することができるとです。また、父母にとつては、親子のふれあいを深めながら、わが子がどんな運動に興味を持ち、どのような運動に向いているのかを知るきっかけにすることができるとです。



本団は、今年で結成二十三年目を迎えます。今後も各単位団から支援をいただきながら、運動が好きで、将来にわたって運動に親しもうとする子どもの育成をめざしていきたいと思えます。

「スポーツの好きな子ども達の育成をめざして」

やなぎスポーツ少年団

代表指導者 遠藤 啓一

身体を思いっきり動かして、スポーツの好きな子ども達になつて欲しいという願いから、平成十一年五月にやなぎスポーツ少年団は結成されました。活動は週一回、土曜日から日曜日の午前二時間行っています。子ども達がひとり活動に参加出来るように、通学時間と同じ午前八時から十時まで



の活動です。小学五・六年生十人でスタートしましたが、現在は小学二年生から大学生まで三十人の団員がいます。季節ごとにいろんな種目のスポーツを行い、基本的な運動能力の習得・向上を目指して活動しています。

四月から九月まではサッカー、秋はテニス、冬はバスケットボールを中心にし、その中に、六月のゲートボール八月のカヌー、冬にはスキー・スケルト体験を行っています。いろんな身のこなしが出来るようになって、自分の好きなスポーツを発見して欲しいと願っています。中学では多くの団員が運動部に加入しているようです。高校でも運動部に入り、インターハイや国体に出場した先輩団員もいます。

保護者の方々にも活動への参加を呼びかけていますが、特に夏のカヌーは人気があり、多くの保護者の参加とともにアウトドアスポーツを楽しんでいます。秋のテニスの時も子ども達と一緒に活動してくれています。

また、親子や保護者同士の交流を目的に、秋に『芋煮会』年末に『手打ちそば作り』を行っています。こちらにも多くの保護者の方々から参加いただいています。子ども達が作った芋煮やそばをみんなで食べながら、にぎやかな会になっています。

我々の団では、中学生以上にも参加を呼びかけています。継続して登録する団



員も多く、部活動や学校の休みの時に活動に参加してくれれます。ジュニアリーダーやシニアリーダーとなり、東北大大会や日独同時交流にも参加しています。これからも、スポーツの好きな子ども達をひとりでも多く育成出来るように活動して行きたいと思っています。

「クラブの理念とマッチしたスポ少活動」

Y u i キッズクラブスポーツ少年団

代表指導者 藤田 明美

Y u i キッズクラブスポーツ少年団は、クラブ設立二年目に誕生した多種目体験スポ少です。クラブY u i の設立準備期間より、単一スポーツだけでなく様々な体験ができ、それが生涯スポーツへと繋がる、運動が苦手な子どもも楽しく参加してくれるスポ少を作ろうと計画していました。

スポーツクラブが設立した平成二十二年、県教育庁より幼児共育ふれあい事業を受託しました。年間を通じ幼児・低学年親子対象の教室を開催。自然散策やミニ運動会、クリスマス会などの開催。その後、参加してくれた子ども達をクラブイベントで発表する目的で、演舞「南中ソーラン」練習に誘ってみました。演舞練習の時間を利用し、体を動かす「きつかけメニュー」を提供しました。

そんな取組みがうまく繋がり、翌年六月、保護者の方のご協力のもと、その子ども達を中心となり、Y u i キッズクラブスポ少として団登録しました。活動は、各専門単位団指導者にサッカー、野球、ミニバスケットボール、陸上、柔道などの講師を依頼し年間一〜二回指導していただいています。

普段の活動は、クラブスタッフがソフトバレーボール、卓球、ニユースポーツ、ダンス、大好きなドッジボール、コンデイションングトレーニングなどを担当。その他、町やクラブのイベントには、「活動」として参加します。

夏期は、「南中ソーラン」演舞練習発表を中心に活動。恒例のサマーキャンプ、昨年は交流のある宮城県の大蔵地七ヶ浜・気仙沼の子ども達と交流。今年、新潟県村上市の子ども達と交流。秋は、飯豊連峰紅葉ジョギング大会に参加、冬は、スキーやクラブイベントに参加するなど年間を通じ多種多様に活動しています。

団員の中にはスポーツが苦手な子やY u i キッズクラブスポ少に入らなければスポーツをする機会がなかったかもしれない子もいます。又、様々なスポーツを体験したことで、自分がやりたいスポーツに出会い、単位団に入団し活躍している子ども達もたくさんいます。クラブの理念は、「いつでも」「どこでも」「誰でも」「いつまでも」スポーツを楽しめる環境、居場所づくりです。私たちクラブ指導者は子ども達が、「スポーツって楽しいな、体を動かすって気持ちいいな。」と感ずることが出来る環境を提供していくことです。いつか、ここから同じ夢を追いかける指導者が生まれることを期待したいです。何でも挑戦しよう！



# 団員の夢

## 「野球の楽しさ」



大江レッドタイガース  
スポーツ少年団

高橋 史希斗

僕が野球に出会ったのは小学校二年生の頃です。兄が野球をしていて試合の応援に行きました。プレーしている姿が楽しそうで、僕も野球をやりたいと思いました。兄と同じ大江レッドタイガースに入団し、練習に取り組んでいます。

練習を始めた頃はボールを追いかけばかりでした。攻守ともにうまい五六年生を見て、今の僕とは全然違うと思いました。自分もうまくなりたいとスポーツの練習だけでなく、時には兄に教えてもらい、家でも素振りや壁打ちなどの自主練習をしました。ミスした時、打てなかった時は野球が楽しくないと思いました。しかし監督やコーチのアドバイスを受けて上達すると楽しいと思うようになりました。初めての試合ではとても緊張したけれど、練習の成果が出てうれしかったです。六年生になるとキャプテンになりました。小学校最後の試合では優勝を目指したけれど、負けてしまいました。悔しかったです。しかし、これまでも練習では守備や打撃のことを仲間に教え、試合ではランニングホームランを打ってチームに勢いを与えるなど、キャプテンらしいことができました。また、改めてチームワークの大切さも学びました。中学校でも仲間を大切に、楽しく野球をしていきたいです。

## 「柔道を始めて」



最上柔道  
スポーツ少年団

竹澤 悠輝

ぼくが柔道を始めたのは、小学三年生の時でした。柔道のスポ少に見学に行ったのがきっかけです。ぼくは太っていて、からかわれることがありました。スポーツも苦手だったので、「太っていてもスポーツはできるぞ」と、見返したいと思い入団しました。

柔道を始めて良かったことは、先輩やコーチからいろいろな技を教えてもらえることです。その技を使って試合で勝つ時は本当にうれしかったです。また、大会の時に他のチームの人と友達にもなれました。

柔道を始めてから少しずつ自分が変わってきたと思います。体力もついてきて、今まで勝てなかった学校での相撲大会で勝てるようになり、五年生の時には優勝できました。そして、その頃から太っていることからかわれることが少なくなりました。柔道では体が大きい方が有利なので、太っていても何も気にしなくなりました。ぼくは、中学校に行っても柔道を続けたいと思っています。そして、練習で先輩やコーチにたくさん教えてもらい、強い最上中学校柔道部で、ぼくも活躍できるように精一杯がんばりたいです。

## 「夢への階段」



米沢レスリング  
スポーツ少年団

斉藤 大雅

ぼくの夢は漁師になることです。魚が大好きで、海の渾にაცოგれていました。マグロを一本釣りで引き上げた瞬間の爽快感は何とも言えないだろうなと思います。でも引き上げるには相応な体力が必要ははずです。

ぼくは、小学二年生から五年間、スポーツ少年団でレスリングを頑張ってきました。小さい時から体が細くて弱々しかったのですが、体が柔らかく柔軟性があり、持久力もある方だったので、この体を何かのスポーツに活かせないかと思っていました。そんな時たまたまいとこがレスリングをしていてのを見に行く機会がありました。柔軟運動で側転や三点倒立をしているのを見て、かっこよくてたくましいと感じていたら、一緒にやらないかと先輩に誘ってもらいました。そして練習もしていくうちに自分も側転や三点倒立ができるようになりました。三年生になると、試合にも出るようになり、努力や根性を学び、自信や体力をつけることができました。また、体も細いし筋力も足りませんが、少しは夢に近づいたのではないかと思います。レスリングで学んだことをこれからも活かしていきたいように頑張っていきます。

## 「夢への目標」



遊佐剣道  
スポーツ少年団

今野 快音

ぼくは、小学校に入学してすぐに遊佐剣道スポーツ少年団に入りました。おじいちゃんから昔の剣道の話を聞いて、やってみたいと思い、入ることにしました。

はじめはルールが全くわからず、打ち、ふみこみ、すり足もなかなか上手には出来ませんでした。でも、練習を重ねていくうちに少しずつ出来る様になり、自信もついてきました。二年生から大会の個人戦に出ました。最初は相手についていけず、何回やっても負けて、一本もとったことがありませんでした。でも、監督、先生方にしっかりと基本から教えて頂いたおかげで九月の大会で初めて一回戦で勝つことが出来ました。その日から、どんどん勝つことが増えてきました。今までは逆に負けることが少なくなってきました。三年たち、六年生が卒業して、ぼくは五年生になりました。一年生の頃十一人居た遊佐剣道スポーツ少年団は三人になりました。この三人のチームで一度も五人制の団体戦で入賞したことがありません。なので今のぼくの目標は、三人で入賞し、結果を残すことです。三人とも、もう少しで六年生になるので、チャンスは後一年しか無いので、目標に向かって三人で力を合わせてがんばります。

●全国スポーツ少年大会

「全国スポーツ少年大会で学んだこと」

陽光卓球スポーツ少年団（鶴岡市）

五十嵐 晴 輝



僕は、全国スポーツ少年大会がとっても楽しみでした。前の日の夜も、初めて会う他のスポーツ少年団の人達とゲームをしたり、いろいろな話をしながら交流したりするのを楽しみました。全国の人の言葉を聞くのも楽しみにしていました。僕の活動班には、全国のいろいろな人達が集まっています、実際に話してみると、「本当に日本語なのか」と思いました。でも、二日目あたりから、何となくですが方言を理解して、いろいろな人と仲良く出来たので、とってもうれしかったです。

僕は野球部に入っていて、野球を楽しんでいます。他の団員のいろいろなスポーツの話聞いて、すごく勉強になりました。種目は違ってもみんな上手になりたくて一生懸命練習しているのは共通していると思いました。

シブプス活動では、勝利を目指すだけでなく、仲間として助け合うことや、チームワークの大切さを学ぶことが出来ました。また、リーダーの人達は、自分のことだけでなく、参加団員や、周り全体を見渡しながら考えて、行動していたことも学べました。僕も高校生になったりリーダーになりたいと思いました。これからは、この大会で学んだことを学校や生活のなかで活かしていきたいと思いました。三泊四日の日程でしたが、楽しくてあっという間に過ぎてしまいました。大会に参加出来てとても良かったです。

●東北ブロックスポーツ少年大会

「東北ブロックスポーツ少年大会に参加して」

三川柔道スポーツ少年団（三川町）

小笠原 楓

僕は、今回初めて東北ブロックスポーツ少年大会に参加しました。先生に話を聞いた時は、県の代表として参加するという事にとっても緊張し、前日もあまりよく眠れませんでした。

当日の朝、引率の土門先生と一緒に酒田駅から会場の田沢湖スポーツセンターに向かいました。電車の中でも、これから何が始まるんだろうという不安でいっぱいでした。

でも、この大会に参加して本当に良かったと今では思えるようになりました。一日目、田沢湖周辺のサイクリングの後、日独同時交流ディスカッションがありました。緊張して何も質問する事ができませんでした。高校生がいろいろな質問をしているのを見て、僕もそんな風になりたいと思いました。

僕が四日間の活動の中で特に楽しかった事は、野外炊飯とキャンプファイヤーです。メニューはカレーだったので、僕はごはん担当で人数分の米を研いで炊きました。少し柔らかくて、ガツカリしていましたが、みんなおいしいと言ってくれました。県もスポーツも学年も違う人達と一緒にカレーを作り、外で食べたおかげなのかとてもおいしいと思いました。

僕はまだ中学一年生で、リーダーという立場になった事はありませんが、今回の大会に参加した高校生の姿を見て、とても勉強になりました。小・中学生をまとめ、活動を通して仲を深める事ができたのも、先頭に立つ高校生や班長のおかげだと思います。



四日間の活動を通して、自分と違う県の人達と交流を深めることができてとても楽しかったです。この大会を企画・運営して下さった方々にとても感謝しています。ありがとうございました。

●日独スポーツ少年団同時交流

「日独同時交流で学んだこと」

陽光卓球スポーツ少年団（鶴岡市）

佐藤 悠 乃



今回ドイツに行き、改めてスポーツの力を感じました。言葉の壁に悩まされ、普段何気なく過ごしているとなかなか話せる勇気が出ませんでした。しかし、スポーツをすると同じようにコミュニケーションが増え、会話することが多くなりました。笑顔も増え、スポーツは世界共通だと感じる事ができました。

日独同時交流の中で特に心に残ったのはホームステイです。英語もドイツ語も自身がなく不安でしたが何とかコミュニケーションをとることができました。私たちが渡航してからのドイツは毎日とても暑く、疲れて家に帰るのが日課でした。明るく面白いホストファミリーで、話しているだけで疲れが吹き飛ばすようでした。広い庭で行われるBBQや天体観測、毎日豪快に盛り付けされたおいしい料理などホストファミリーと過ごした日々はかけがえのない思い出です。

日本に帰ってきて思うことは、もっと英語の勉強をして言葉の壁を越えて交流したいと思いました。英語だけでなくドイツ語も勉強して、ホストファミリーと再会したいです。充実した交流でした。

平成二十八年度登録より、山形県スポーツ少年団登録料が団員・指導者共に三百円から四百円に改定されます。

近年、本県スポーツ少年団の団員登録は少子化等の影響を受け毎年減少しており、直近の五年間では三、〇〇七名、本県少年団のピークであった昭和六十二年からは一四、一四五名の減少となっております。団員の減少は、登録料収入の減少に直結しており、慢性的な収入不足のなか事業内容等の見直しを行い大幅に支出を削減し運用して参りました。また、平成九年度に現在の三百円に改定して以来改定を行ってきませんでした。緑越金等を充当しても賄えない状況になっております。

このような状況から財政基盤の強化を図ると共に、指導者の資質向上や魅力ある団づくりになど、本団の更なる発展に向け取り組みで参りますので、登録料の改定につきましてご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。

※各市町村登録料を含む全体の登録料につきましては、ご登録いただいている市町村スポーツ少年団本部にお問い合わせください。

	登録料		
	日本スポ少	県スポ少	市町村スポ少
指導者	700	300→400	市町村毎
団員	300	300→400	

県の動き

表彰

- 生涯スポーツ少年表彰 (優良団体) 鮭川Jrバレースポーツ少年団
- 日本スポーツ少年団顕彰 (市区町村表彰) 舟形町スポーツ少年団 (表彰指導者) 早川勤也(寒河江市)、石塚悦雄(朝日町)、安部行雄(長井市)、土門満(酒田市)
- (感謝状) 本間清治(鶴岡市)
- 山形県スポーツ少年団表彰受賞者 (優良団) クローバーFCスポーツ少年団(山形市)、やなぎスポーツ少年団(寒河江市)、尾花沢小学校野球スポーツ少年団(尾花沢市)、舟形スポーツ少年団(舟形町)、川西柔道スポーツ少年団(川西町)、白鷹剣道愛真会スポーツ少年団(白鷹町)、朝日ミニバスケットボールスポーツ少年団(鶴岡市)、立川サッカースポーツ少年団、余目三小せいがスポーツ少年団(庄内町)
- (功労者) 山本明(山形市)、木下秀雄、卯月吉彦(寒河江市)、松田久(村山市)、鈴木重美(尾花沢市)、藤山一栄(山形市)、菅井新一(川西町)、鈴木雄一郎(長井市)、清野美智夫、菅原良和(鶴岡市)
- 各級スポーツ少年団資格取得者
- 認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会 七コース開催 (参加者) 五二一名(内一九五名認定)
- 認定員 (日本体育協会公認指導者資格保有者) 九名認定
- 各種事業
- 県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダーズスクール 山形県神室少年自然の家 八月七日～八月九日
- (参加者) 少年大会八十五名、ジュニア・リーダーズスクール三十一名、指導者二十六名、リーダー三名

- 県指導者・育成母集団研修会 十一月十四日 山形国際ホテル (山形市)、(参加者) 一二五名
- 日独同時交流受入 八月六日～八月十日 最上地区 (ドイツ団) 指導者一名、団員八名 (ホストファミリー) 柏倉政男(新庄市)、早坂憲明(金山町)、菅誠(最上町)、磯谷久実(舟形町)、笹原透(真室川町)、早坂健司(大蔵村)、遠田旭有(鮭川村)、安食守(戸沢村)
- 日独同時交流派遣 七月三十一日～八月十七日 十八日間 (指導者) 高砂晃(寒河江市)、(団員) 伊藤雄平、斎藤直希、佐藤優、佐藤悠乃(鶴岡市)
- 日独指導者交流派遣 十月四日～十月十七日 石塚康(鶴岡市)
- シニア・リーダーズスクール 八月六日～八月十日 静岡県 (団員) 佐々木理、上野雅尚、伊藤晃任、池田正義(鶴岡市)
- 全国リーダー連絡会 九月二十六日～九月二十七日 東京都 (指導者) 上野和義(鶴岡市)、(リーダー) 齋藤拓未(鶴岡市)
- 北海道・東北ブロックリーダー研究大会 十一月二十一日～十一月二十三日 岩手県 (指導者) 上野和義(鶴岡市)、(リーダー) 大場智貴(米沢市)
- 全国スポーツ少年大会 八月一日～八月四日 宮城県 (指導者) 清野美智夫(鶴岡市)、(団員) 安藤悠斗、池田直、菅原優、伊豆田京花、鈴木麗永、五十嵐晴輝(鶴岡市)、鈴木青樹(寒河江市)、金子優奈(川西町)
- 東北ブロックスポーツ少年大会 七月三十日～八月二日 秋田県 (指導者) 土門邦廣(酒田市)、(団員) 阿部晴登、菊地真太郎(寒河江市)、栗田奈緒(鶴岡市)、小笠原楓、寺岡優斗(三川町)
- 全国スポーツ少年競技別交流大会「ホッケー」(第三十七回) 八月七日～八月十日 熊本県 川西ホッケー(川西町)、【サッカー】(第三十九回) 十二月二十五日～十二月二十九日 鹿児島県 S・F・Cジェラール(山形市)、【剣道】(第三十八回) 三月二十六日～三月二十八日 鹿児島県 新庄地区柔剣道錬成会、東山錬成会(新庄市)、【バレーボール】(第十三回) 三月二十七日～三月三十日 福岡県 クローバーJVC(山形市)
- 東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 【軟式野球】 七月四日 福島県 成生ファイヤードラゴンズ(天童市)、【サッカー】 七月二十五日～七月二十七日 岩手県 鶴岡Jr.F.C(鶴岡市)、アビカ米沢FC(米沢市)、WAGO MOLINIO F.C(庄内町)、【柔道】 十一月二十八日～十一月二十九日 青森県 高橋道場(山形市)、新庄地区柔剣道錬成会(新庄市)、戸沢道場柔友会(戸沢村)、【ミニバスケットボール】 三月十二日～三月十三日 福島県 滝山ミニバスケットボール、鈴川ミニバスケットボール(山形市)、谷地南部ミニバスケットボール(河北町)、致道男子ミニバスケットボール、櫛引ミニバスケットボール(鶴岡市)、三川ミニバスケットボール(三川町)

編集後記

●編集後記●  
 団員の減少に伴う登録料収入の減少により事業内容の見直しを行い、本紙もカラーから白黒になりました。内容については、多くの方々の協力をいただき変わりますが、集合写真など今後工夫を凝らす必要があると考えます。  
 各団におかれまして、団員確保に工夫を凝らしておられると思いますが、「地域の多様化するニーズに応えるスポーツ少年団」として、特色ある団の紹介をさせていただきます。少子化の中、より多くの子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらえる魅力ある少年団作りをしていただきたいと思います。

編集委員

- 委員長 須見 憲明
- 副委員長 齋藤 勉
- 委員 奥山 保雄、高橋 章、早坂 憲明、菅井 新一、中津川典広、佐藤 利浩、廣川 由香、大場 雅久、吉田 正博

いざというときしっかりサポート

# スポーツ安全保険

傷害保険 賠償責任保険 突然死葬祭費用保険

対象となる事故 団体活動中の事故 / 往復中の事故

保険期間 平成28年4月1日午前0時から平成29年3月31日午後12時まで (申込受付は平成28年3月から)

スポーツ安全協会 検索 インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

公益財団法人 スポーツ安全協会 山形県支部 (公財)山形県体育協会内

〒990-2412 山形市松山 2-11-30 TEL 023-642-8321 電話受付時間: 午前9時～午後5時(土、日、祝日を除く)

http://www.sportsanzen.org ●資料請求は、インターネットより受け付けております。 携帯電話から資料請求ができます。

